

## 【広報部長より発刊の挨拶】

広報部の今年度新企画として会員間の情報交流誌を発刊しました。これは5年前に、毎年1回発行されていた支部広報誌「城北」を休刊したときに、それに代わるメールマガジンのようなものの発刊が話題になったことありましたが、当時はマンパワー等の関係で検討されませんでした。しかし、今年度は若い部員の増加もあり、発行回数、発行時期等の目標を敢えて決めずに試験的な意味もこめて発行してみることにしました。

本情報交流誌は支部長のスローガンであります3C戦略のCommunicateを実現する手段でもあります。すなわち「城北支部会員の満足度向上・コミュニケーションの円滑化」に貢献できればと思っております。現在、城北支部内の各種連絡はメールで流されていることもあり、それらメール情報との違いをだすため、読んで楽しくなる情報交流誌にしたいという思いから多少遊び心で編集していますことご理解願います。

今後、本情報交流誌を育てていくことは広報部だけの力で当然できることではありませんので、皆様からの寄稿、アイデア等をいただきながら、我々の成長とともに情報交流誌もいっしょに成長していければと思っております。今後とも皆様のご協力をお願いいたします。 (広報部長 八巻優悦)

## 【城北支部と他支部との違い?】

城北支部は今年で55年を迎える記念の年といえます。諸先輩が築きあげてきた城北支部も会員数が400名に手の届く大きな組織となっております。東京協会の中では一番小さな支部でしたが、今や城東支部と並び三多摩支部もみえる位置で走り続けています。

私が診断士登録をした時は勤務先が中央区でもあり、特に考えもなく中央支部に入会しました。中央支部では研究会などさまざまな活動に積極的に参加し、多くの先生からご指導も受けましたが、プロコンとして活躍するには矢張り地元と考え、10年程前、城北支部に移籍をしました。当時は城北の会員数も200名程度だったと記憶しています。城北に転籍して間もなく、当時の青木支会長(当時は支会)から国際部長をやってほしいと声をかけられました。また、協会会員の2本柱(プロコンと企業内診断士)の一つである企業内診断士の活躍のために、新たな研究会を設けて支部活動を活性化してほしいとの依頼を受け、「企業内診断士フォーラム」を立ちあげました。その「企業内診断士フォーラム」が、今や協会を代表するハイブリッド診断士になっているのは嬉しい限りです。

城北支部には、入会して間もない若い人(年齢ではなく前向きなやる気のある人)にもチャンスを与える風土といったものがあると感じてきました。そうした「城北支部のよさ」を更に活かしてゆくべく、「城北らしさ」を支部のスローガン「3C戦略」に織り込み、実践してゆく場面をどんどん作ってゆきたいと思っております。

今年度の役員部員には、ベテラン・中堅に加えて登録間もない若い(年齢じゃない)先生にも多数就任いただいております。本誌創設では若手2名の広報部員に尽力いただいておりますが、役職についていない先生からのどんな提案も大歓迎です。皆さんの積極的な支部活動への参加、城北らしさの溢れるChallengeを期待致します。

少数精鋭の城北支部も会員数が400名近くなると、私自身も全員の名前と顔が結びつきません。支部活動に参加することで相互のCommunicateが図れ、名前や顔だけでなく、夫々のキャリアも分かり、協会関係の仕事や業務でも支部長として責任もって推薦することができます。顔の見える風通しのよさが「城北らしさ」です。

昨今のアベノミクスの下、プロコン・企業内を問わず、診断士としての活躍の場面は公的にも民間ベースでも追い風が吹いています。診断士として資質を高め、新たな中小企業支援をCreateしてゆく絶好の機会といえます。そうした環境作りを各区会やNPOBSとも協力し、また、協会ベースでの金融機関関連や公的業務を城北支部により多く引き込むべく皆さんとともに頑張りたいと思っております。 (支部長 朝倉久男)

この日は、城北支部の区会・研究会の活動の紹介がテーマ。約6つの会から、代表者がプレゼンターとして参加。懇親会で驚きの事実が！A会代表のa先生は、B会の会員でもあり、代表のb先生と親しい間柄。また、b先生はC会の会員としても活動していて代表のc先生とも当然親しい。更に、a先生とc先生も懇意の仲。城北支部では、いろいろなどころで会員同士が繋がっていて、どこか1つで繋がりができると、一気にそれが増えていくそうです。そして、青年部の会合は、このさまざまな繋がりを持つ会員が一堂に会するので、「どこでどんなことをしようか？」に悩む新入会員が、手っ取り早く、さまざまな情報を入手できるので、何かを始めるいいキッカケづくりに最適です。何よりも、いつもの懇親会会場も含め、アットホームな雰囲気的魅力的です。

●青年部

- ・活動：年6回 平日夜  
日暮里サニーホールを中心に
- ・内容：若手診断士向けに  
キャリア構築や交流を深めることを主な目的とした勉強会など
- ・次回(第3回)定例会は、10/13(月)  
12:00からバーベキュー
- ・連絡先 松本  
yamamo04@xc4.so-net.ne.jp  
定例会はどなたでも参加できます。  
気軽に足を運んでみてください。



ホテル併設で豪華な雰囲気の「日暮里サニーホール」



懇親会は、「町の居酒屋」感たっぷりの「ぼんた」



【今月の城北人】

片桐文夫 先生 KFC 診断士事務所 (K=Katagiri F=Fumio C=Consultant) 連絡先: katagiri230@yahoo.co.jp



\*ケンタッキーフライドチキンではありません(笑)

【職歴・得意分野】 製造業の管理部門に33年間勤務後、4月に独立

現在は、商店街支援の他、ものづくり補助金事務局に勤務。

製造業の支援、財務および管理会計も専門分野。

【支部活動】 実務従事支援部副部長、NPO BS、NPO 北経協、地域支援部員、企業経営研究会

私の特技はバルーンアート。18年前、息子の学校のイベント応援で作ったのがキッカケです。いつでもどこでも披露できるよう、ビジネスバッグには常に風船と空気入れを忍ばせています。北区診断士会の飲み会の席で披露したことがキッカケで北区東豊名店街の商店街イベントに呼ばれたり、Happy Road 大山商店街でアンケート調査の景品代わりにして協力者を誘引するなど診断士の営業ツールにもなっています。バルーンアートの魅力は、子供に限らず、若い女性などにもウケること。プロコン塾の懇親会では、隣に座った女子大生軍団と、有楽町の居酒屋では隣に座った外国人家族との、交流に成功しました。また、小学校の校外学習の講師に呼ばれたこともあります。子供にはアンパンマンが、20代の女性にはプードルがおすすめです。どこかでお会いしたら、皆さんにもプレゼントします。



風船を常備しているビジネスバッグ



子供が喜ぶ、アンパンマン



若い女性を引きつけるプードル



中級者向け ドラえもん

## 【あしがき】

---

とある懇親会で部長級の先生方4～5人とご一緒した時の会話。A先生「俺は結構長いね。蒸留酒はいいみたいで、2杯目以降は焼酎にしてるんだ」。B先生「私も先日、ビリビリって、はじめてきました」。C先生「そのうちもっと痛いのがくるよ。」。A先生「そういえばD先生もじゃなかったっけ?」。何の話題かといえば“痛風”です。「TOPを見ると社風がわかる!」と言われていますが、この支部には、痛風になるべく風土があるのでしょうか? (広報部員 岡本)

## 【本誌に関する皆さまのご意見、ご要望をお待ちしております】

---

### ① 皆さまがお持ちの“ネタ”を提供してください

- ・研究会・区会の活動を紹介したい、または、ご自身のセミナーを紹介したい。⇒広報部員が潜入します
- ・ご自身の特技を紹介したい。支部内の方と交流したい。⇒「今月の城北人」のコーナーで紹介します
- ・診断士としてのノウハウを紹介したいなど ⇒特集記事化します。

### ② 皆さまが知りたいことを教えて下さい

- ・企業内診断士の活動状況が知りたい。
  - ・独立するには、どうしたらいいかを知りたい。
- ⇒各種 特集を組んで記事を作成します。

### ③ 読者としての(批判も含め)感想をお聞かせください

- ・批判的な内容もお願いします。今後の改善に活用させていただきます。

### ④ 本誌編集スタッフ募集中

- ・「隙間時間にちょっと」「アイデアを出すだけ」でも構いません。

問い合わせ先 城北支部広報部: [johoku.kouhou@gmail.com](mailto:johoku.kouhou@gmail.com) まで よろしくお願ひ致します。

JOHOKU SHINDAN 誌 ～第1回 城北らしさって～

2014年9月15日発行

発行者:城北支部長 朝倉久男

編集者:城北支部 広報部